

【親鸞部門（中学生）・優秀賞】

自分のペース

私立札幌大谷中学校 第2学年 白鳥 桃歌

私は小さい頃から「自分はみんなと同じようにできないからしかたがない」と言い聞かせてきた。小学校の個人懇談で担任の先生が母にこう言ったらしい。「桃歌さん、算数ができません」と。それを母から聞いた時、正直私は怒られると思っていた。だが、私の予想とは全く母は違っていた。焦る私に母は「自分のペースでゆっくりわかるようになればいいんだよ」と笑顔で言った。でも私の口からはまだ不安が溢れていた。「でもみんなはできるのに自分だけ」そこまで言うと、母が笑い混じりに「大丈夫。だってみんなより理解するのに少し時間が必要なだけでしょう？」と言ってくれた。そして私は気づいた。時間がかかっても暫くすると理解ができているということに。

中学になった今でも母は勉強ができなくて怒ることはない。どちらかと言うとできた時はとことん褒めてくれるのだ。だから、私は、「自分のペースで」という考え方が好きだ。私は幼い頃から空を見ながら歩くのが好きでよく見上げながら歩いている。月が浮かんでいれば、「何故月は丸いのか」そして星が光っていれば、「あの星の大きさはどれくらいなのだろう」と次々と疑問が出てくる。そんな事を考えているとたまたま躓いて転ぶこともあるが、私にとってはどうでもいい事なのかもしれない。

じゃあ何故このような事を書いたのかと言うと、私の様な考え方をしている人がいる事を知ってほしいからだ。どんどん変わる世界の中で私のような考え方をしている人がどのくらいいるのだろうか。そう考えるととても興味深い。

傍から見ればマイペースだと思われるのかもしれない。けれどこの「自分のペース」と言うのがそれぞれにあるのだと思う。なぜなら周りにどう言われようが、それが「私にとっての世界」である事に変わりはないのだからだ。いつかは自分と同じ様な考えを持つ人と話してみたいものだ。